



令和4年度

沼城小学校運営協議会（コミスク）だより

沼城小だより

令和4年11月18日
周南市立沼城小学校



ぬくもりのある子（徳） ま正面から取り組む子（体） きらめく子（知）

深まる秋に

校長 早川 真司

学校の紅葉も、見事に色づき秋の深まりを感じる日となりました。

秋と言えば、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋といろいろ呼ばれるほど、体を動かし、じっくりと物事を考えることにふさわしい季節とされています。

さて、皆さんはどのようなスポーツに親しんで来られましたか？

私は、小学校のときは、市の卓球教室に通いました。中学校の最初はバレー部、1年の秋に膝を壊し卓球部になりました。高校では仲の良かった友達に誘われ弓道部に入部。大学では、継続は力なりと考え、弓道部に4年間在籍しました。

仕事に就いてからは、忙しさのあまりスポーツに親しむことはありませんでしたが、たまに釣りに出かけていました。そんなとき、通勤途中にカーラジオから流れてきた話がとても印象的で、今でも記憶に残っています。

それは、生涯「3つのスポーツ」に親しむとよい、という内容でした。3つのスポーツとは、「個人対個人」「団体対団体」「個人対自然」のスポーツです。

個人のスポーツでは、純粋に自分の才能と努力が結果に反映されます。団体のスポーツでは、協力することの大切さがわかります。そして、自然相手のスポーツでは、決してかなわない自然という雄大な相手に、どのように立ち向かうか工夫と勇気が問われ続ける、そのような内容だったと記憶しています。

そこで、自分を振り返ってみると、最初に取り組んだのは卓球です。これは、自分の技術を磨くと同時に、「相手の弱点ばかりを攻撃する」という面も自然と身に付きます。そのあとに取り組んだ弓道では、個人もですが、団体戦に力を入れました。自分が的を外しても、次の仲間の矢を信頼することの大切さ。仲間の失敗を、これまで以上の集中力でカバーできることの喜びを知りました。そして、自然相手のスポーツでは、自然に対してあまりに小さく無力な自分を意識し、それでも、次は結果を残せるかもしれないと努力し続けることの大切さを学ぶことができました。

若い頃、道徳で研究授業を行いました。力を入れ準備し授業に臨みましたが、子どもたちの反応は今一步で、私も不完全燃焼の授業でした。授業後に、指導に来られていた道徳の高名な先生がこう声をかけてくださいました。「早川先生、卓球やテニスのように、取りにくいところ取りにくいところへ問いかけちゃだめですよ。野球のキャッチボールのように、相手の構えたところに問いを投げかけるんです。子どもは伸びようとしています。そこを伸ばすんですよ。」

学校では、先生方と子どもたちの素敵な心のキャッチボールがみられます。私も保護者・地域の皆様と心のキャッチボールをしたいと考えています。今後とも、よろしくお願ひいたします。

